

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターげんき		
○保護者評価実施期間	令和7年1月31日		～ 令和7年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月31日		～ 令和7年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が複数で訪問することにより、多方面からの視点での支援ができる。	当センターの療育で活用している有効な手立ての紹介・提案。訪問先の先生方の成功体験が得られる働きかけ。	職員研修の充実による専門性の向上。
2	支援対象を、当センター利用児又は利用歴のある児とすることで、各人の特性や療育歴を踏まえた支援ができる。	訪問先施設との間で、対象児に関する情報共有・共通理解をていねいに行い、共通認識のもとに訪問支援を行う。訪問先施設へのフィードバックの時間御確保、伝達内容の充実を図る。	訪問に先立ち、目的、支援方法、日程等について相互理解を深めておく。訪問先施設との日頃からの連携。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多くの回数は実施できないこと。	人材の確保。	多機能型で実施しているため、他サービスの内容を低下させない範囲での実施。
2	支援対象を、当センター利用児又は利用歴のある児としているため、多方面への対応ができない。	効果的な支援を行うため、療育歴や現状を把握できる児に限っている。	左記の原則を維持したいので、現状の支援の在り方としたい。
3			